社会主義期モンゴル国におけるカザフ音楽の越境的な形成
―地方ラジオ局所蔵の音楽アーカイブズ「アルタンコル」の活動を中心に

総合研究大学院大学 文化科学研究科 比較文化学専攻
八木風輝

本発表では、社会主義期モンゴル国における越境的な音楽知識の伝達と曲の保存を通じたカザフ音楽の形成を考察する。対象とするのは、モンゴル人民共和国(以下モンゴル国)バヤンウルギー県地方ラジオ局が管轄する音楽アーカイブズ部門「アルタンコル」である。

ユーラシア地域では、国境が引かれる 19 世紀まで、回廊的な空間の中で遊牧民と定住民による人々の往来と生活が営まれた。しかし、20 世紀に誕生したソ連政府は、この地域の国境を策定して、共和国へと領土を分割し統治した。そして、ソ連の民族政策を通じて、共和国ごとに民族文化(音楽を含む)の形成を促した[渡邊 2010]。例えばカザフ共和国(現在のカザフスタン)では、基幹民族であるカザフ人を対象にカザフ民族文化が形成され、それに伴うカザフ音楽が演奏された[東田 1999]。

この民族政策は、ソ連の衛星国であったモンゴル国にも及んだ。モンゴル国の 8 割を占めるハルハ人の文化を基礎として「モンゴル民族文化」が形成されたのである。さらに、モンゴル国の場合、カザフ人を含む国内のエスニックグループの文化が、「モンゴル民族文化」によって抑圧されながら形成された[Bulag 1999]。

ところが、モンゴル国バヤンウルギー県に住む約 9 万人(県人口の 90%)のカザフ人は、西隣にあるカザフ共和国から音楽に関する知識やモノを輸入することで、カザフ音楽を演奏してきた。1950 年代以降に、カザフ共和国から、楽器・楽譜・磁気テープ・音楽家らがバヤンウルギー県へ移された。一方、バヤンウルギー県の音楽家もカザフ共和国の音楽学校へと留学した。また、モンゴル国政府においても、バヤンウルギー県のカザフ音楽の形成に対し寛容であり、当地の劇団やラジオ局といった文化機関を通じて関与した。すなわち、モンゴル国におけるカザフ音楽とは、モンゴル国の文化政策とカザフ共和国からの音楽の越境を反映しながら、両国関係の中で形成されてきたのである。

この音楽の形成過程で、音楽アーカイブズ部門「アルタンコル」が、バヤンウルギー県地方ラジオ局に 1967 年に設立された。そして、社会主義期を通じてモンゴル国のカザフ人に伝わる音楽のみならず、カザフスタンから輸入されたカザフ音楽を包括的に保管した。アルタンコルでは 1960 年代から 1980 年代に、ラジオ局のスタジオで磁気テープによる演奏者らの約 2000 曲以上の収録と保存が行われた。収録された曲は、社会主義体制の崩壊後も当時の音楽を参照できる唯一のものとして存続している。

本発表では、この社会主義期に設立された音楽アーカイブズの活動の歴史と収蔵されている楽曲の内容に注目しながら、複数国家に跨り居住する民族の音楽の越境的な形成と演奏に関する事例を提示する。